

## STEP 07. コンベアの駆動

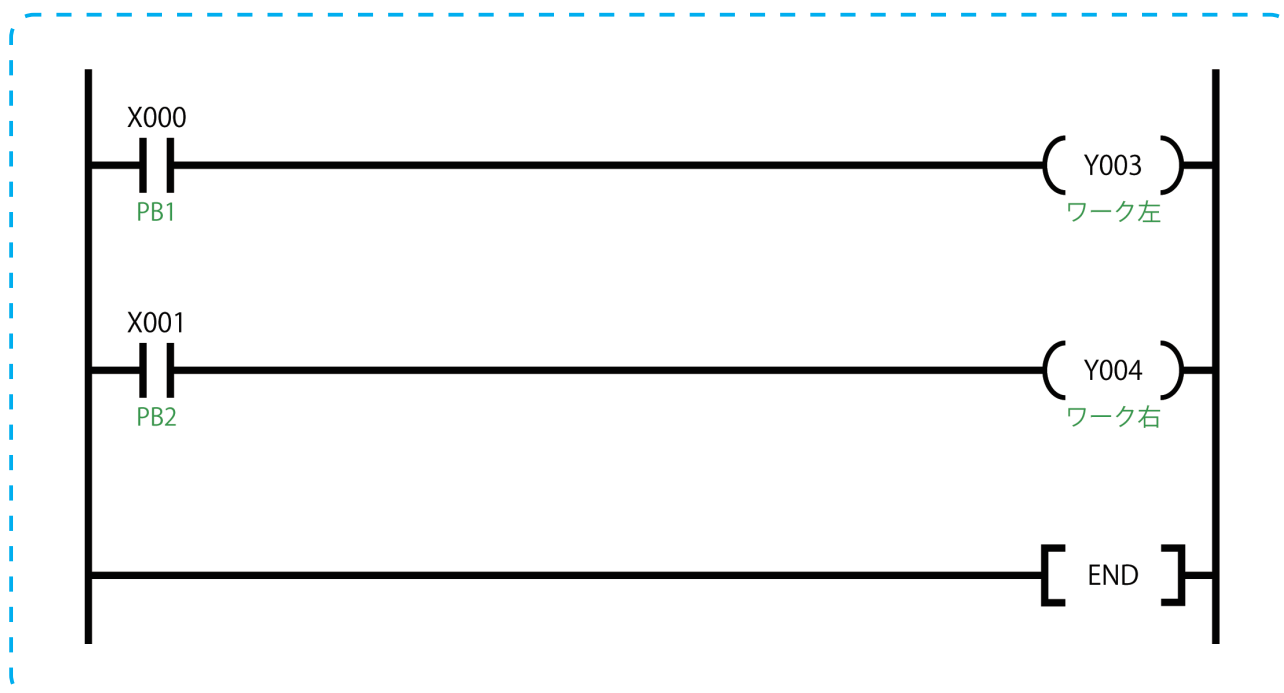
次の動作をするプログラムを作成し、実習ユニットで動作させてみましょう。

課題：押ボタンスイッチ 1 を押すとワークが左行する。  
押ボタンスイッチ 2 を押すとワークが右行する。

本 STEP の課題では、出力にワーク（モータ 1）を追加します。使用する出力機器は変わりましたが、ラダー図はここまで学習してきた知識で作成することができます。

### ラダー図

PB1 が ON でワークの左行が ON、PB2 が ON でワークの右行が ON になるため、本 STEP のラダー図はシンプルな ON 回路が 2 つ並んだものになります。X000 の ON で Y002（ワーク左）が ON、X001 の ON で Y003（ワーク右）が ON になるようにします。

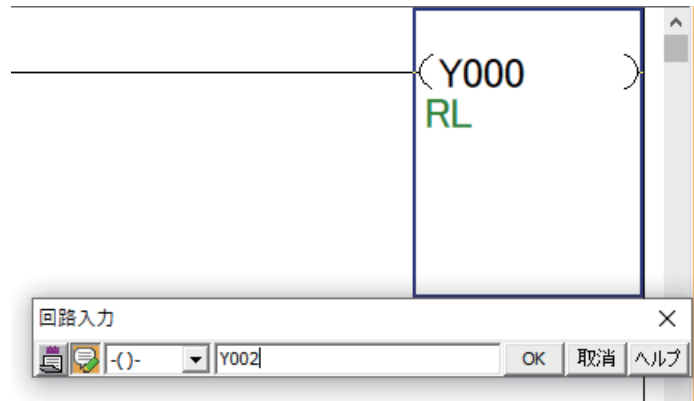


前 STEP の OR 回路を編集して、この STEP のラダー図は作成します。OR 回路のプログラムを開き、[プロジェクト] → [名前を付けて保存] で本 STEP のプログラムとして保存してください。

まず、コイル駆動命令のデバイスを Y000 から Y002 に変更します。

コイル駆動命令にカーソルを合わせ [Enter] キーを押すと回路入力ウィンドウが開くので、「Y000」を「Y002」に変更し [OK] をクリックします。

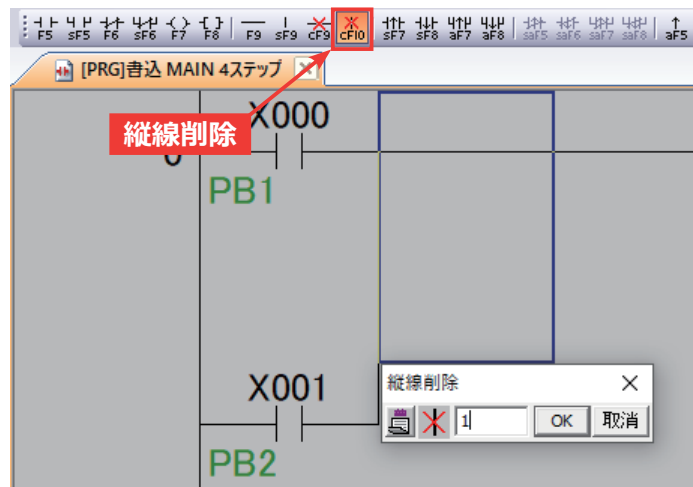
コメントは「ワーク左」等の動作を表すものにしておくと良いでしょう。



続いて、1行目と2行目を繋ぐ縦線を削除します。

X000 の a 接点の隣にカーソルを合わせ、回路図編集ツールバーの [縦線削除] を選択すると、縦線削除ウィンドウが開きます。

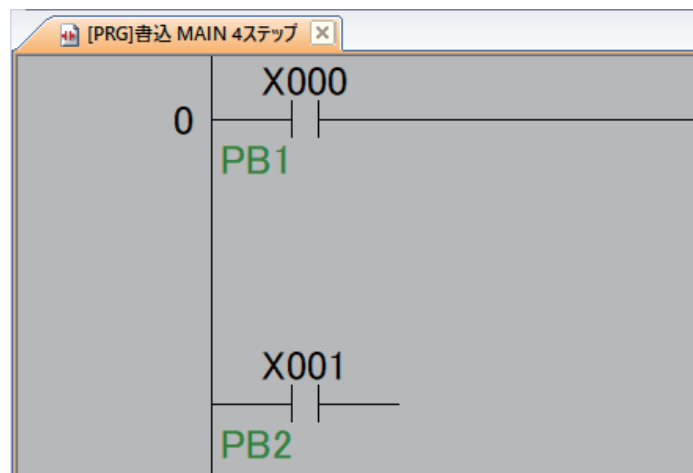
縦線削除ウィンドウでは、削除する縦線の行数を指定します。ここでは「1」と入力し [OK] をクリックします。



縦線は右図のとおり削除されます。

後は2行目にカーソルを合わせ、回路図編集ツールバーでコイル駆動命令を選択し、デバイスを X003 とすれば本 STEP のラダー図は完成です。

プログラムの変換と書き込みを行い、実習ユニットで動作を確認してみましょう。



### 簡単な縦線・横線入力方法

ラダー図の縦線や横線はツールバーの [縦線入力] や [横線入力] から追加することもできますが、キーボードの [Ctrl] キーを押しながら [矢印] キーを押すことで、その方向へ簡単に縦線・横線の入力や削除を行うことができます。操作を行った箇所が空白の場合は線が追加され、既に線画存在する場合はその線画削除されます。